



第160号

発行所 上高井教育会  
発行人 上高井教育会長  
富澤慶吉  
編集人 会報編集委員長  
黒岩幹夫  
印刷所 須坂新聞社

# 子どもに光を見て

## —今こそ確かな理念を—

上高井教育会長 富澤 慶吉

先日五日に伊那市の県民文化会館で行われた信教総集会に三十数名の会員の方々と共に参加してきました。

会場の立看板には「第百八回」とあって、その連綿とした歩みに思いを新たにせざるを得ませんでした。

上高井教育会の創立は信教より一年後であるから、今年度で百七周年を迎えていることとなります。

一つの団体や組織の活動が一世紀以上も継続しているという事実はそんなに多く存在するものではなく、稀有なものの一つであるといってもよいでしょう。

このように長い歴史を刻む歩みの中に、今自分というものの身を置いているのだと意

識した時、自分の踏みしめている足に何か意志的な力を加えていかなければならないのだと感じております。

さて、最近では事あるごとに激動する社会の変化とその対応の中で、政治的・経済的・社会的な諸問題が混迷という状況にあるといわれ、それにかかわって教育問題もとりわけ厳しさを増しているといわれることが多く、何か一人の力ではどうにもならないことばかりのような錯覚に陥ることがあります。

そうした時に、だれかが前途に光明が見えるようにしてくれないかと願う気持ちが起きてくることも否めない事実であります。

しかし、社会の変化と混迷

りますが、まずは目の前にいる子どもをよく見つめることが最も大切な原点だと思っています。「真実は何か」と探すのではなく、事実をよく見ること、一にも観察、二にも観察だと考えております。子どもも言動やその背後にある思いや願いが見えてきた時、私の中に一つのひらめきが起きてくる、つまり直観がはたらいて、私自身が何をどのようにしたいのかははっきりしてくるにちがいないと思っております。そのことを私は子どもの中に真実の光を見たいのであります。よく子どもから学ぶということがあります。

は多かれ少なかれ、いつの時代でも存在するのであって、その時に誰かが解決してくれることを期待し、依存的精神に陥っていることがいかに危険な社会状況を生み出すかは、世界史の上でも、わが国の歴史の上でも明らかであります。

殊に次代を担う人づくりの学校教育に携わる私たちは、混沌の中にあっても、冷静に事実の関係を把握して、真実の光を見つめて、確かな理念と教育の理想を持たなければならぬ時だと考えております。

そのためには、国際社会の動向も国内の政治経済の動きにも関心を持つていなければならぬことはもちろんであります。

私たちが子どもの育ちの姿で学力を語り、生徒指導のあり方を述べることに道はあ

りません。そこから教育理念を確かなものと

育ちの姿で学力を語り、生徒指導のあり方を述べることに道はありません。そこから教育理念を確かなものと、教育の理想を持つことができるとすれば、その時こそ混迷の中にも光が見え、激動する社会にあっても、目指す方向を見失うことはないと考えています。

## 教育会だより

4 1 選挙公示(役員選挙)

4 2 第1回代議員会 第2回選挙管理委員会

4 4 理事長選挙 第3回選挙管理委員会

4 8 第2回代議員会 第4回選挙管理委員会

4 11 副理事長・理事・信教常任委員・信教代議員選挙

12 第5回選挙管理委員会

12 第1回常任委員会

13 19 研究委員会及び同好会世話係会

13 19 教育会会計監査会

13 19 研究総委員会 於須坂小学校

22 25 講演会 中心講師 谷川彰英先生(筑波大学助教授)

22 25 演題 「授業の発想・教師の発想・子供の発想—問題解決学習をめぐる—」

26 27 第1回研究委員会世話係会・委員長会

26 27 第3回代議員会 新任者会員歓迎会 於教育会館 新任者会員10名

26 27 第6回選挙管理委員会

26 27 監事選挙

26 27 第2回常任委員会

26 27 同好会発足会 於須坂小学校

26 27 第1回同好会世話係会・会長会 於教育会館

26 27 教育会定期総会・講演会 於須坂市公民館 397名参加

26 27 ○平成5年度会務報告並びに決算・平成6年度事業計画並びに予算の承認

26 27 講演会 講師 新井郁男先生(上越教育大学教授)

26 27 演題 「新しい学力を育てる学校改善」

26 27 ○会員意見発表

26 27 「道徳教育と私」久保田英雄教諭(高山中)

26 27 第108回信教定期総集會 於県伊那文化会館 本会参加30名

26 27 第3回常任委員会

26 27 第4回代議員会

26 27 上高井教育会報第160号発行

# わかり、魅力のある授業

研究委員長 竹内 正勝

過日の研究委員会総会でも述べましたが、学校不対応対策調査研究協力者会議報告によれば

一、学校は楽しいか。  
。「あまり楽しくない、ぜんぜん楽しくない」と答えた者が合わせて、小学校五年生で117%、二、どんな悩みを持っていま

。「勉強の悩み」と答えた者が小学校五年生で58.2%  
。「友だちの悩み」と答えた者が44%

「勉強の悩み」が中学生では約80%と多くなり、授業のあり方等工夫が必要である。今や医師も患者の立場に立って診察し、治療する時代である。子どもの側、学習者の立場を無視した授業では、感動もしないし、理解する気にもなれない。

それにしても、子どもの学習が一見活気に充ちているが、学力の定着が乏しい場合がある。それは学習者の課題となっていないからではないでしょうか。

大阪大学の梶田毅一教授は次のように述べています。「自己を耕す教育」とは「内面性の教育」のことである。自分自身の感性を育て、

主体的に真実を追求していくことである。この内面世界のありようを考えることである。これが「耕す」につながる。子どもが自己を耕すように教育することにも、教師自身が自己を耕すことが求められているのである。それならば、具体的な一時間の授業の中で、どうしたら「自己を耕す」となるだろうか。それこそ、前述したように、学習者が本時の課題を自分なりにとらえ

自己の体験を語り、自己を語り、自分の体験を振り返って考えてみる場面が重要だと思います。「自己を耕す」とは魅力のある授業につながるわけでありませう。

上越教育大教授新井郁男先生も、新しい学力について、豊かな体験が必要であると強調しています。つまり、本当に学習しようという心情を伴わなければ、外的知識をいかに注入しても、役にたたない

ではないでしょうか。七月六日は研究日でありませう。各校、自校の研究を基にどのようなステップを踏んで問題解決的教育観に迫ろうとされるか検討中かと思えます。今、子どもにとって魅力のある授業が大切であります。一時間の授業にしばって研究したいものです。(旭ヶ丘小)

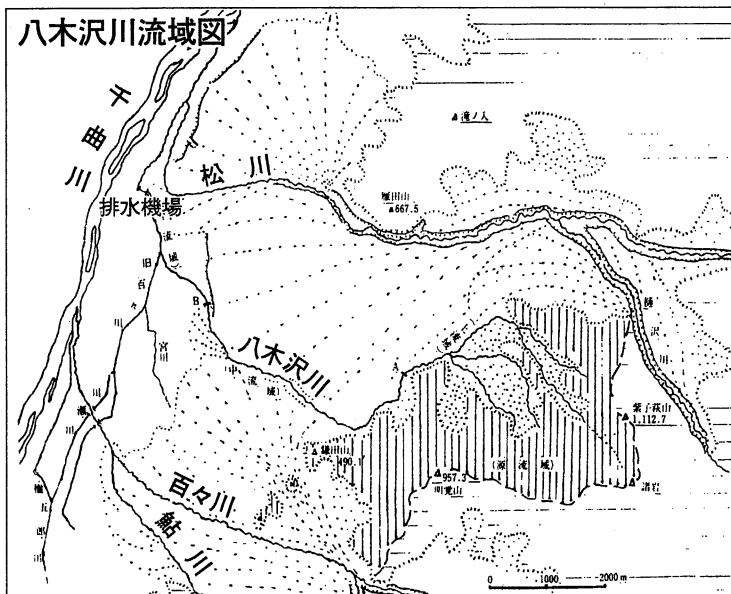
## 須高の山と川⑤

### 生活と文化の指標

# ～八木沢川～

青木 廣安

八木沢川は小河原辺では柳沢川とも記したが、上流の高山村赤和地籍に小字「八木沢」があり、これに由来するともいわれる。流域住民は「やんしゃ川」と親しむ。源流域は明覚山系の北面で集水面積は小さい。源流は一般に紫子萩山(一、一一・七メートル)の山腹といわれるが、一、二五〇メートルの諸岩(室岩)とみれる。この方が水流が豊かで谷頭が高位に続く。岩盤の露頭があり伏流水が湧出する。その上位にも洶れ沢が諸岩直下に続く。八木沢川は全長約十五キロで短く、日頃は水量が少ない。中流域で須坂・松川両扇状地上の用水や排水が流入する。また下流域では旧百々川筋に集まった綿内方面を源流と権五郎川水系の用水まで流入する。水豊かな水郷景観を呈す。



流末は北相之島の揚排水機場で千曲川の堤外に出るが、堤防に添って小布施橋の南で松川と合流し、北岡の先で千曲川に注ぐ。松川・百々川が酸川であるのに対し、八木沢川は魚族のすむ川であるが、上流域の家庭雑排水の流入で汚れがひどい。昭和四十年代は農業汚染で背骨の曲がったフナが多かったが、近年は富栄養化によって肥満魚が多い。八木沢川は須高の生活文化のメルクマールである。

## 平成6年度 県外視察者

学校名	氏名	視察目的	学校名	氏名	視察目的
栗ガ丘小	割田 正樹	理科指導法の研究	高甫小	赤羽 利樹	体育・算数の教科指導について
"	越 修一	社会科指導法の研究	仁礼小	堀田 幸雄	高学年の体育(表現活動)指導について
"	神山 知香	コンピューターの活用	豊丘小	栗田 早苗	合唱指導における先進校の視察
"	盛野 美和	生活科指導について	小布施中	北沢 秀忠	リズムなわとびを学ぶ
高山小	西沢 朋子	教育心理について	"	宇治 香苗	吹奏楽指導の指導力を高めるための研修
"	丸山 和男	コンピューターの教育利用について	高山中	平野真理子	音楽科学習指導の実践視察
須坂小	依田 正良	助け合う学級作りの活動の視察	常盤中	田島 雅子	吹奏楽の指導法研修
"	坂口 弥生	わかり、魅力ある授業とは～音楽教育において	相森中	加賀崎 寛	県外の美術教育の視察
"	木下 晶子	吹奏楽指導の指導力を高めるための研修	"	綿内 剛美	英語教育の実情視察
森上小	山岸 信之	社会科の学力の定着の指導法や評価のあり方について研修を深める	墨坂中	清水 真	体育理論(運動医学、コーチング論)の研修
日滝小	鹿野 朋子	先進校の保健指導(性教育)についての視察	"	木下 一雄	吹奏楽指導
"	近藤仁生・斎藤義男	先進校の研究、実践に学びたい	東 中	返町 輝雄	教科指導研究



# 同好会の発足あたって

町田 徳

# 上高井の情報教育の活性化をねがう

コンピュータ同好会長 平林 博

ある会台に出席した折に、隣り合わせになった先輩から声をかけられました。

「最近の先生は本をあまり購入しないというのが本当かい。同好会はどうなんだろう。」

先生になりたての頃は、絵の研究会があると上田へ行き、国語の会があると松本に行ったものだが……。

「上高井教育会のあゆみ」から同好会のことを見ると、最初は会員の自己研修への止むに止まれない思いから同好の士があい集う形から生まれました。昭和四年の記録には、音楽講習会、体育講習会、植物講習会、図画講習会の四つの講習会があり、それぞれの会に五十円事業助をしたとあります。

当時は同好の士が研修を目的として仲間を誘いあい〇〇研究会として講習会を開催していました。

教育会の正規の事業として組織的に同好会が位置づけられ補助金が出たのは、昭和二十八年からで八つの同好会が組織され、三十一年には十三になりました。この当時の会員は研修への情勢が旺盛で僅かな補助金しかないのに中央から一流の学者を講師として招いたり、自費で東京や京都の学者の門をたいて教えを

請うたようです。

「教師の生命は研修である。」の言葉の通り、先輩たちは研修なくして教師たりえない思いで研修に努め、かなりの自費を投じていたようです。

教師は教育者としての使命感、教科の専門的学力、子どもの成長発達を理解した上での指導力を身につけなければならぬ高度な専門職です。

さらには今日のように教育への課題が山積している時にこそ自己研鑽が求められています。こうした多くの要請を受け、教育会では哲学・文学・美術・音楽・理科・書道・算数数学・体育・地歴・俳文学・教育心理・カウンセリング・技術家庭・道徳教育・コンピュータの十五の同好会で延べ二百八十五人で活動を始めました。

年間九回の実施予定ですが、会員の熱意によって十回を超える活動をする同好会もあります。

互いに多忙な日々ですが、同好会が始められた頃の先輩の自己研修への熱い思いを会の活動に生かしていただきましたと願っています。

夏休みには特別な企画をする同好会がありますので、その会に所属していただくも加えます。どうかお誘い合

ってご参加下さい。(日野小)

〇はじめに

周知の通り、コンピュータの活用は、新学習指導要領の最重要項目の一つです。指導要領が情報教育の直接的な内容を示しているのは、中学校技術・家庭科の「情報基礎」だけですが、コンピュータを活用した教育の改善と情報教育の推進は小学校・中学校を問わず全ての教科・領域に求められています。

は残念ながら不十分といわざるを得ません。

「新整備方針に基づく教育用コンピュータの整備について(平成六年四月一日文部省通知)」によれば、国は教育用コンピュータの設置台数を小学校で二十二台、中学校で四十二台とし、平成六年度より地方交付税措置がされることになっています。

小布施町は小中学校ともこの基準をすでに達成していますが、須坂市、高山村とも小

学校については整備計画も発表されていないのが気がかりなところです。特に須坂市は小学校への設置と同時に、中学校への設置台数の増加と機種を要望していく必要があります。

コンピュータ本体はもちろんソフトの技術の進歩はめざましいものがあります。しかしながら各校とも設置導入されたソフト以外は、ほとんど購入されていないのが実情です。国から予算化されているソフト購入に関わる地方交付税措置が、学校段階まで十分下りてきていないのは大きな問題です。

さらに、せっかく導入されるの目に触れ、心の糧としてきた。

特に十年程前より、西田先生の自筆を色紙に写し、卒業生全員に、

「日三省」のことばを常に胸に刻んで「強く、正しく生きる」ことを願う、卒業記念品として贈り続けている。

また本校の児童、職員も一日に三回自分を省みるべく、「心の宝」として毎日の生活を送っている。

(藤井一男)

## 本校の宝⑤

### 森上小学校

森上小学校にある数多くの書、絵画の中で、本校を卒業していった先輩たちまでも大切にしている書「日三省」が校長室に掲げられてある。これは「論語」の中にあることばの一節で「吾日三省吾身」である。

「一日に三回、自分をふりかえってみる」ということで、常に自分をふりかえってみることを大切に、私たちの生き方を教えてくれている。

これは日本が世界に誇る哲学者西田幾太郎先生が、森上

コンピュータの整備と活用

コンピュータの整備はめざましいものがあります。しかしながら各校とも設置導入されたソフト以外は、ほとんど購入されていないのが実情です。国から予算化されているソフト購入に関わる地方交付税措置が、学校段階まで十分下りてきていないのは大きな問題です。

さらに、せっかく導入されるの目に触れ、心の糧としてきた。

特に十年程前より、西田先生の自筆を色紙に写し、卒業生全員に、

「日三省」のことばを常に胸に刻んで「強く、正しく生きる」ことを願う、卒業記念品として贈り続けている。

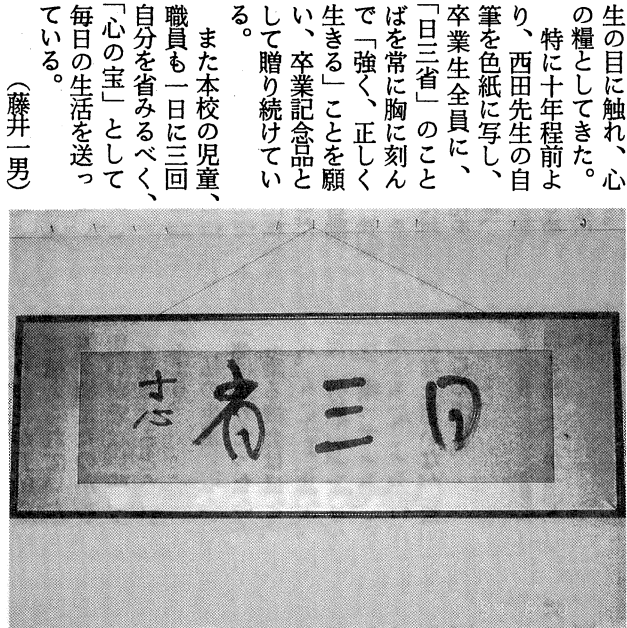
また本校の児童、職員も一日に三回自分を省みるべく、「心の宝」として毎日の生活を送っている。

(藤井一男)

たソフトも数が少なかったり、研修機会の不足からか利用されずに陳腐化してしまうものもあるようで嘆かわしいことです。

〇コンピュータ同好会の活動

本会は、昨年度情報教育同好会として新設された会ですが、本年度改称しました。小学校の先生方の加入も増え、二十三名の大所帯となりました。



# 火ばら 談義



酒井 秀雄

先日、ある父兄から生活記録の感想欄に「帰宅く夕食く宿題く風呂く寝る。どの子も同じみたいですが、よく言われる『ゆとり』とは何ですか」と今の中学生の生活についての質問をいただいた。

そう問われると、中学生の時間に追いつめられた忙しい生活ぶりは事実であり、私は返答に困ったが、時間の使い方工夫するしかないのではと返事を書いた。

この頃、信教の定期総集会の折、森本哲郎先生が講演されて、その中で日本人の時間的余裕のなさはスペインの下層以下であるとお話を伺った。現在の時間的に貧困な生活の中では、創造性のあるものや文化的なものなど到底生まれづらいものだとも共感する。自然界の摂理に反した生活(そんなことを言ったら夜勤で生活している方には大変失礼であるが)をしなければ維持できない現在の便利な生活。物の流通のスピードや正確さ、能率のよさにはずば

# 気分転換

石川 七重

教師になってから一年が過ぎたが、まだまだ思い悩むことが多い。そんな時は、気分転換をすることになっている。学生の頃はよく散歩をしていたが、時間的余裕もそうないので専ら自転車にばかり乗っている。ちょっとした買い物に行っても、けっこう素敵な場面に出会うことがあるのが魅力だ。畑の隅で泥だらけ

かすると、傍らで見ている人は不気味に思うかも知れない。が、そんなことは全く考えず思うままにペダルをこいでいるのである。

先日は、信濃美術館に行ってみた。長野までの道がこんなに平坦だったなんて、と喜んでみた。しかし、村山橋があるのに狭くて怖いものだとは思っていたいなかった。自動車の運転者にしてみれば、迷惑な自転車だっただろう。そんな怖い思いをして渡った村山橋だが、その下に咲く花を見て心が和んだ。そこには、色とり

# 揺れ動く子らに学びつつ

朝間 春子

「先生、解放子ども会に行っている子がいじめをするってどういうことなんだい。」とある親から訴えられた。「その子が差別されているから差別をするんです。」と言うと、「何だって、うちの子はいじめられてるんだ。どうしてくれるんだい。」と、差別されているのは我が子だと強調した。確かに子ども会に来ていた子は差別をなくす学習をしている。でも子ども達も差別もけんかもある。同じ人間だもの。ところがこの親のように、子ども会に通う子は差別をしないんだと思いをしている人が実に多い。差別をしたりされたりしてい

るのが人間である。分けて考えられるところに問題がある。Bさんは幼少時家庭にいろいろな重しがあり、そのことが心の重しとなって自分を素直に出せない子になっていた。周りの大人は子どもらしくない子だという見方で接したから、大人に対して不信感を抱くようになった。寂しさをテレビや絵本で紛らし、友と遊ぶことも少なかった。入学しても級友としゃべりたくないことが多かった。この背景に部落差別がある。背負わなくてもよいものを、たまたま同和地区に生まれたというだけで背負わねばならない苦悩。学級のグループ化が進む頃からこにこして子ども会に通って

# 編集後記

日滝小

青田を渡る風が、ひとしお快く感じられる今日この頃です。

お忙しい中、原稿をお寄せ下さった先生方、本当にありがとうございます。

本年度は、次のメンバーで会誌・会報をお届け致します。

委員長 黒岩 幹夫(森上小)

副委員長 浅岡 修一(常盤中)

委員 前角 増次(小山小)

井口 博司(井上小)

丸山 和男(高山小)

西原 秀明(高甫小)

小山 洋子(墨坂中)

成沢 幸之(東 中)

久保田啓一(小布施中)

内藤 格(高山中)

信教 (小山・井口)